

第4回地域支援ネットワーク部会

平成27年2月18日

【検討内容】

緑区の現状と地域課題(強み・弱み)を
把握、整理し今後の取り組みを考える

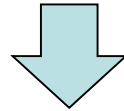
「地域ケア推進会議」 地域づくりを進めるに当たり・・・

- 地域課題の抽出・把握、整理**（個別事例検討、アンケート、グループワーク、代表者会議、意見交換等から抽出）
高齢者のニーズ、住民・地域の課題、社会資源の課題（介護、医療、予防、生活支援、住まい）、支援者の課題（専門職の数、資質、連携状況、ネットワーク）
- 地域資源の把握・発掘**（地域のフォーマル、インフォーマル・民間の資源の再確認、特に地域の中で積極的に動いている人、核になりそうな人、住民相互の活動や組織、ネットワーク、民間事業者の取り組み等地域の強みを過去を含め把握する）
- 地域課題について地域関係者とともに共有する**
（地域の課題は地域の関係者の課題として認識してもらう）
- 生活圏域、モデル地区等の検討**（成功体験が次の活動を広げる）

そのためには、市全体や生活圏域単位で、医療や介護関係者、自治組織、NPO、ボランティア等によるタウンミーティング、会議等を通し、地域課題解決のための支え合いの仕組みを検討する。**【地域ケア（推進）会議の実施】**

○地域ケア推進会議で検討した内容の実施

- ・圏域レベル等の地域の関係者ととともに役割を持って取り組む
- ・実施内容によっては、介護保険事業計画等政策提言等にも反映させ、市全域で実施していく。



⑤地域づくり・資源開発

インフォーマルサービスや地域見守りネットワークなど
地域で必要な資源

開発(行政や社会福祉協議会を巻き込み自治会、医療
機関等と進めていく)

⑥政策形成

地域に必要な取組みを明らかにし、政策を立案・提言
していく

【医療、介護の連携】

- ・医療と介護の連携、在宅医療の推進
（合同勉強会、情報の共通ツール等）
- ・在宅歯科と介護の連携
- ・訪問看護や薬剤師との連携
- ・在宅での看取りへの対応
- ・認知症の早期発見、対応（初期集中支援チーム）

【生活支援、介護予防】

- ・自助（民間活力）、互助（ボランティア）等との連携強化
- ・小地域単位での介護予防の展開
- ・地域の特性や実情に合わせた事業実施
- ・認知症高齢者及び閉じこもりがちな高齢者の支援体制
- ・高齢者世帯等への見守り体制

【住まい】

- ・サービス付き高齢者向け住宅等の整備
- ・住宅施策と連携した居住確保（一人暮らし高齢者等）
- ・地域密着型サービスの整備

【人材育成】

- ・専門職の資質向上、連絡会等の育成
- ・事業所間の情報共有や人材育成のための研修等の協働実施

地域課題解決に向けた取り組みを考える

課題解決については、地域の強み(地域の資源や人材、人のつながり、過去からの文化)を生かす

①地域資源を把握する(地域の強み、いいところ)

例;在宅歯科診療を積極的にすすめる歯科医師がいる

〇〇地区のサロンでは予防向けの体操を中心に行っている

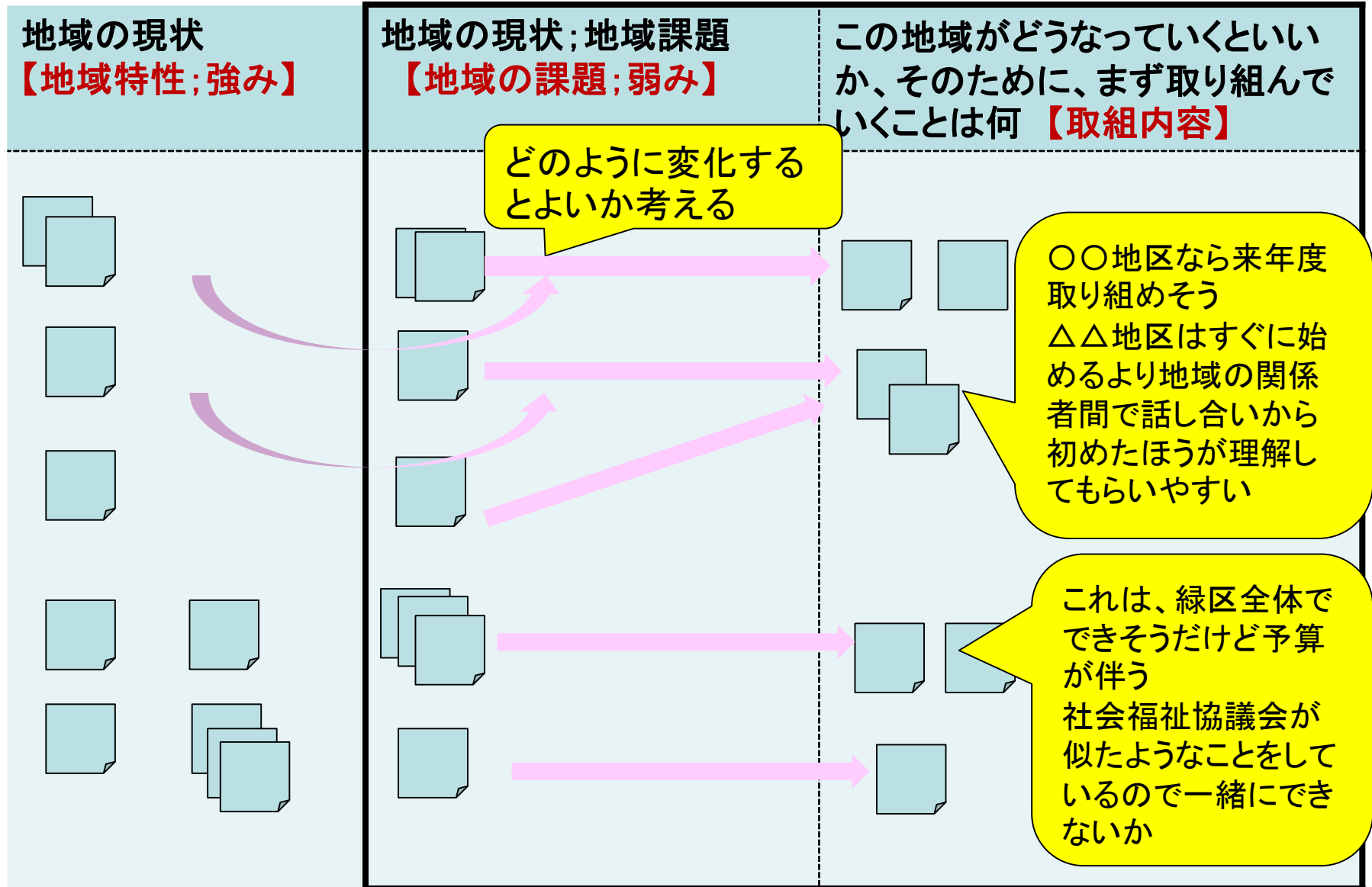
△地区の八百屋は出張販売もしてくれている

②自ら関わる事例から見えてくる地域の課題と考えること

例;家族に介護に対する認識が低く、介護サービスにまかせてよしと考える傾向にあり、もう少し高齢者の病気や健康に対して予防的な知識があってもいい挨拶をする高齢者が減ってきて日中もあまり散歩等集まる機会が減ってきた消費者被害に合うケースが増えている

③この地域がどのようになっていくといいか、そのために取り組むとよいこと(目標の共有化と具体的な取り組み)

地域課題の把握から地域課題解決策を考えるGW



検討結果について

(1) 本日及び前回の発表、検討内容について

地域包括、行政等で課題ごとに整理する

- ① すぐに取り組んでみる
- ② 次年度以降に取り組む
- ③ 第6期介護保険事業計画にて実施
- ④ 再度検討をしていく⇒圏域推進会議へ

(2) 圏域ごとに本日の内容に取り組む

本日の結果を含め、圏域ごとの関係者と、地域課題(孤独死をなくすため地域でのように見守りしていくか)について地域資源を見直しながら、今後の取り組みを検討していく

(3) 再度、市全域の推進会議で検討する

圏域ごとの検討結果を市全域の推進会議にて再度検討していく

第6期介護保険事業計画への提言、地域福祉計画等との整合性を図る

地域の課題は地域が動かないと意味がない

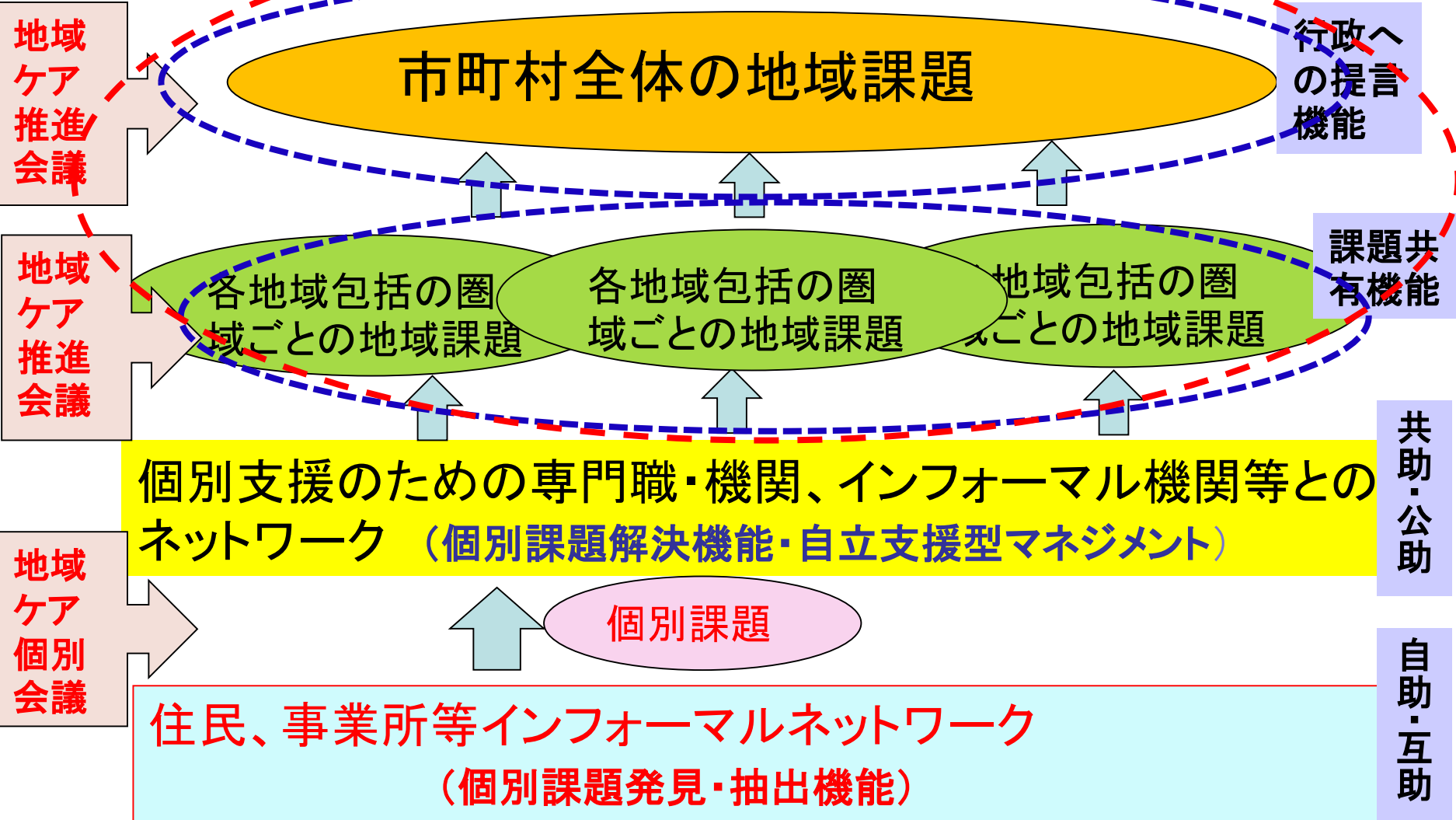
【一言】

行政からの指示によるやらされ感では長続きしない

地域課題解決に向けて、新しいもの(事業、活動)を作ることばかりではない。むしろ、**現在取り組んでいる地域の活動や事業、資源(地域の強み)**を評価し、結び付けることが大切

地域包括ケアシステム構築の整理

本日は両方を兼ねた検討会の一環



まとめ

①地域の関係者を含めた地域ケア（個別） 会議を開催し、ネットワークを形成

- 地域の関係者のネットワークが強化されるとともに社会資源や支援体制の課題も明らかになり、地域課題解決に向けた検討にもつなげる
- 評価時には、個別支援だけにとらわれず、本人や家族にできること（自助）、地域住民にできること（互助）、医療や介護サービス（共助、公助）を検討し、地域で暮らし続けるための地域包括ケア体制づくりにつなげることが必要

②地域ケア(推進)会議を通して、地域課題への住民の認識や関係者の理解を深める

- ・生活圏域レベルで、顔の見える関係づくりを大切に、具体的な取り組みに結び付ける

③地域とともに、地域での支えあいの仕組みを作っていく(地域の再構築)

- ・地域住民や関係者に対して、地域の課題、不安要素を共有化し、解決に向けて、どのような取り組みが必要か、役割分担をしつつ、地域とともに動いていくことが地域連携の一步となる
- ・すでに地域が取り組んでいることの再評価から進める
- ・実践は小さなエリアで構わない、モデルや手本があると広がっていく